日本書紀傳 三十ノ巻十一

百十三

内閣文庫 書 一〇五二二號

内閣文庫

番號	和	10522
冊數		156 (122)
函號	特	85 1

国立公文書館
National Archives of Japan

内一二六八三號

宮内省圖書寮印

内閣文庫

右等ハ皆大和國より移し奉れる者と見ゆ○又曰以下ハ右ハ謂ゆる姫蹈鞴五十鈴姫命の御父母の神等の異説あり抑此命の御事ハ一も上五百三十八丁小注一奉るが如く御父ハ大物主神御母ハ蹈鞴媛命ハ御在一坐て即三島溝掬耳神の大女なり然るハ此傳の趣ハ事代主神の御女なる由なれども大三輪神三座注進次第別宮葛城賀茂神社條ハ八重事代主命也大巳貴命之子母曰神楯媛化為八尋熊鰐通三島溝（）掬耳小女玉櫛媛生一男一女是天日方命賀茂主命父五十鈴依媛命葛城高丘宮御宇天皇ニ后即磯城津彦天皇父と見えたる是正説ハて此ハ謂ゆる玉櫛姫

ハ即右の三島溝）撫耳神の小女ヨ渡ラセ給ひて其
蹈鞴媛とハ本より別ふる神ゝて御在ー坐を如何ヨ
してゝ其事混れて其大女ハ大物主神ヨ小女ハ事代
主神ヨ娶れ奉れる事の明らゝヨ成ず成れりける者
ふり但此事を兼て神武天皇庚申年御紀正妃を立さ
せ御在ー坐す所ヨ時有人奏之曰事代主神共三島溝
撫耳神之女玉櫛媛所生児号曰媛蹈鞴五十鈴媛命是
國色之秀者天皇悦之辛酉年春正月庚辰朔尊正妃為
皇后生皇子神八井耳命神渟名川耳尊と有り又其を
結ひて綏靖天皇前御紀ヨ神渟名川耳尊天皇神日本

般石余彦天皇第三子也母曰媛蹈鞴五十鈴媛命事代主
神之大女也と有て首尾相貫通れる物ゝ右五百四十三丁
ヨ古事記丹塗矢の故事を引て委曲ヨ注ちゲ如く其
蹈鞴媛ハ略ヨて委ーく ハ勢夜陀多良比賣と聞ゆる
勢夜ハ進箭ヨて多ニ良ハ立ふり謂ゆる其丹塗矢の
来りて突其美人之富登と有る其事ヨ因れる名ふり
又其生坐る御子を比賣多ニ良伊須ニ岐比賣命と申
す富登多ニ良ハ陰元立ふて其御祖命の勢夜陀多良
ヨ同ドく伊須ニ岐ハ尓其美人驚而立之伊須ニ岐伎
と有る由ヨ依て負坐るを後ヨ姫蹈鞴五十鈴姫命と

改直して称奉る御名ありしが故に大物主神の丹塗矢に化して其蹈鞴媛に通給へる御事に於て少しも間然（これぎ）無くあむ有けるに御紀の上にても右の如く此大三輪之神也此神之子云々又姫蹈鞴五十鈴姫命と有る是本説にて又曰ハ異傳ありけれバ古事記と合る方の本説を立るあむ御紀の正旨にも叶ニ可き事ありける記傳廿巻二十丁に此の文を引るる因に云々抑如此神代巻にハ此記と同トく大三輪神の御女と云方を主と為て記しふゞ神武天皇御巻にハ其傳をバ一日とも擧ずして唯事代主神の御子とのみ有ハ如何ぞや二共に古の傳にハ有べけれども彼巻と此巻と違へるに似たるをやとゝめゝれたるハ実に見抜れたる説にあむ有けるム然れバ此に事代主神の玉櫛姫命

今予先に右の丹塗矢の故事ハ山城風土記の故事と孔て の状の相同一きを以て姫蹈鞴五十鈴姫命を事代主神の御子と有る方にて人ハ此のハ全く山城風土記の故事の入混ひたる者と思ひ一うとも右に右事記の文を引て注すに及びて二十年全思定たり一僻心を改めるに至り呼より以前に其説を書る物ハ悉くに今此を捨る事と知べし即安政七年庚申二月十五日なり

をして令生給へるあむ天日方奇日方命と（姫蹈鞴）五十鈴依姫命と二所御在して坐たりけゝ地神本紀ハ大神朝臣賀茂朝臣等の家記より拾採れる物と見え て大凡ハ其混れ無き物なれ猶右四百六十二丁五百三十九丁に

正しく辨たるが如く文に都味歯八重事代主神化為ハ尋熊鰐通三島溝杭女活玉依姫生一男一女兒天日方奇日方命云々妹姫蹈鞴五十鈴姫命云々次妹五十鈴依姫命云々と有て都てハ三柱ありて生一男一女と有て一女を略けるハ右の鎮座次第と照し考るに其に生一男一女天日方命五十鈴依媛命と有と等しき

傳ふりけむを御紀の趣も然すがに難推く（妹）姫蹈鞴五十鈴姫命云々の文をバ書加へつるむを其一女を二女に改むる迄はバ至りぐ〻り者にて却りて今其撰入を見分る便宜と成れるハ実に神の恩賜なるむ有けり然して其（鎮座次第あり）五十鈴依媛命の下に葛城高丘宮御宇天皇皇后即磯城津彦天皇父と有る父字ハ母字を誤れる者にて綏靖天皇二年御紀に立五十鈴依媛為皇后即天皇之姨也安寧天皇前御紀に磯城津彦玉手看天皇神渟名川耳天皇太子也母曰五十鈴依媛命事代主神之女女也と有る是まり但天皇之姨也又女也と有るなどハ彼姫蹈鞴五十鈴姫命を事代主神之大女也と書れたるに對るれたる者にて本より誤れる傳ふる可き事を待ず如此く首尾を合せて書されるなる此五十鈴依姫命の生生る御事を漏されたるに甚可惜しき必正に此所に在べき事なるを然るぬハ姫蹈鞴五十鈴姫命と五十鈴依姫命の御名の言の近きを以て混れたるを為むる偖又鎮座次第天日方命の下に賀茂主命父と有る父ハ也字ふどの誤なる可くして上四百七十三丁に注るが如く賀茂主命と申すハ天日方奇日方命の亦名にて葛城の賀茂の地に御

在ー坐けり謂ふりけれハ其五十鈴依姫命も御兄と共ニ其所ニ御在ー坐けむを綏靖天皇の其姫ニ任給ひー御申縁共の御在ー坐て終ニ其葛城高丘宮ニ大宮柱太高敷ー御在ー坐て天下を所知看す御事とぞ成れりけむ偖此程ハ謂ゆる人世の始とも云程の事ふるニ大物主神の御女姫蹈鞴五十鈴姫命ハーも神武天皇の皇后と成こせ御在ー坐て綏靖天皇を生奉こせ給ひ事代主神の御女五十鈴依姫（命）ハーも綏靖天皇の皇后ニ成こせ御在ー坐て安寧天皇を生奉こせ給ひ天日方奇日方命亦名鴨主命の女渟名底仲媛命ハーも安寧天皇の皇后ニ納れ御在ー坐て懿徳天皇を生奉こせ給へるふど天照太神と素戔嗚尊と二柱神の御末の一ニ成て天下を持たせ給ひ（又其）顕露事幽事の御上ニ取ても甚止事無き所申御在ー坐す御幽契と聞えて尊ーとも云へ更ふる御事ふりうー右の三御代の天皇尊等然ふる理を尋ねさせ御在ー坐て要こせ御在ー坐けるニハ在ずりけれど（寄ーきを）も自然ニ其迹違ハずーて成行くふむ（其事の極ミ）至りてハ皇祖天神の御定ふる事申す迄ニハ非ろ可ー古事記ニハ五十鈴依姫命渟名底仲媛命二柱の要れ奉れる御事を書されざるハ其取これたる古記ニ傳ハるざるけるニころ故其大物主神事代主神（等共ニ）の三島溝橛耳神の大女小女を各要こせ給へる御上ニ尋常とハ甚く

異なる事共有り然るハ大物主神丹塗矢ヨ化て其大
女媛蹈鞴媛ヨ娶給ハるハ狹井河みての御事なるが其
ハ上百六十六丁五ヨ注るが如く播磨風土記ヨ宍禾
百四十八丁
郡安師里云ヒ為安師者因安師川為其名川者因安師比
賣神為名伊和大神將娶訛之(不)(聽)尓時此神固辭不聽
於是大神大瞋以石塞川源流下三形之方故此川ヲ水
と有る安師比賣神ハ雨師比賣神ヨ一て水中ヨ住給
ヒ靈神と聞ゆ其伊和大神ハ三輪大神の御事なるが
以石塞川源と云ハ水を令涸て其川ヨ住ざるしめ給
へるなるが狹井河の水源ハ三輪山と宍師山との間

なるが其名の等しきを思ふヨ後ヨ此ヨ来居て其丹塗矢の為ヨ娶ラれ奉り
し者と所見なるに此ヨ事代主神化為八尋熊鰐通三下五百九十一丁ヨ注るが如く
島溝樴姫と有ヨ合せて出雲風土記ヨ仁多郡恵山郡
家正南廿三里古老傳云和尓恵阿伊村坐神玉日女命
而上到尓時玉日女命以石塞川不得會所恵故云恵山
と有る和尓ハ其事代主神の化給へる事を傳漏せる
ヨや阿伊村ハ風土記より後ヨ郷名と成て和名抄ヨ
阿伎郷有る是なり若て古事記玉穂宮段ヨ三島之藍
と有る地名ハ同抄ヨ攝津國島下郡安威阿井郷有ヨ合
ひ神玉日女命と玉櫛姫と言相近きを思ふヨ右ハ全

く此の故事ふる状ふり然れば此ハ出雲國よりての御事と為べきなれ若て以石塞川と云ハ右の播磨ふる
と同ト事よて此も神玉日女命ハ當昔阿伊川ゟ任せ
御在ー坐けゟ靈神ふりー故ゟ事代主神ハ尋熊鰐と
化て水の任ゟ游ゟせ御在ー坐けむを石を以て塞ゟ
れ給ひー故ゟ其御心を得果させ御在ー坐ざりーを
後ゟ三島ゟ至りて終ゟ其御妹妖の御語ゟひい成ー
故ゟ其地名を負ー て三島溝擦姫と申すふり可ー
備右の大女をも此小女をも子守神と申す由右ゟ引
ゟ注進状ゟ所見たるハ謂ゆゟ水分神の御事と聞ゆ

然ゟ時ハ此大女小女二柱ハ共ゟ正身ハ靈ゟて御在
ー坐すを二柱神等（各）其御妻と成させ給へゟハ國土経
営の御時よー有けれハ山を辟き水を通ー て國形を
宜ー く作固めさせ給ハむ為ゟ其御力を合せ給ハむ
との神量ゟ出たりけゟ御事ふるゟこゟ又傳サ九巻
引て注ゟが如く　古事記ゟ大穴牟遅神の　八十二丁ゟ
貴命を要ゟせ御在ー坐て御丹神を今生給へゟハ更　八上比
ふり大倭神社注進状ゟ丹生川上神社を其別社と
て斎奉ゟ理をも合せて思ニ可ー又上三十丁ゟ次
ゟ注ゟが如く此事代主神を別雷神とも大山祇神と
も申奉れゟハ更ふり諸國ゟ在ゆゟ大井神社と申す
ハ其神ゟて渡ゟせ給ひ又此神を祀れゟ長柄神社ハ
長江神社と申す事ゟて各水ゟ因れゟ御徳の御在ー
坐す御旨をも明ゟむ可く又下五百　十丁ゟ注ゟ
が如く此溝擦姫命亦名伊古奈比賣命と申奉りて人

世と成て後なも奇しき神驗を見ハし給へる御事ふと思合す可し○事代主神本御名ハ味耜高彦根神と申奉りて其ハ大國主神に對ひて國作の御功に因りて全体の御名に御在し坐し事代主神と申奉るハ後の御名ふるハ然る物にて大物主神を大物代主神と称奉る其に對へて和魂の御名に御在し坐し又其荒魂を一事主神と申奉りて其御事迹ハ三神にて見えさせ給へれども本是一神にて渡らせ給へり偖御紀に此神の生坐る御事を載られず其御祖の御事を書されず劍へる其御父大神大己貴神の后神等の御事を漏して傳られざるゑむ甚遺憾

一きを古事記地神本紀等に其事の載られる各可否有て一向に取まぢりければ其ハ下千百六十七に注し

てむを此に其事代主神の御事に就て其御祖の御上を明らめ申す可し先古事記に故此大國主神娶坐下胸形奥津宮神多紀理毘賣命生子阿遲鉏高日子根神次妹高比賣命亦名下光比賣命有り然るに地神本紀に大己貴神先娶坐宗像奥都島神田心姫命生一男一女児味耜高彦根神妹下照姫命次娶坐邊都宮高津姫神生一男一女児都味歯八重事代主神次高照光姫大神命と有て此に奥都島神邊都宮神を共に

一云大國主神亦娶神屋楯比賣命生子事代主神

娶らせ給へる趣あり然りを傳世六百五十ヨ二丁ヨ注ー奉
るが如く賀茂別雷神松尾大山咋神と申奉るハ即事
代主神の御事なて渡らせ給へるを松尾なていハ大山
咋神胸形中都大神の並御在ー坐ハ其御母子ヨ渡ら
せ給へる謂あり(ウケ)(ケ)れば此なていハ中都宮神ヨも娶せ
給へる由あり此を以て見る時ハ胸形三神共ヨ大己
貴神の后神ヨ御在ー坐す状あるを以考るヨ其賀茂
御祖神を玉依姫命と申奉るハ八幡ヨて三女神を合
せて称奉る御名あり且傳十五二百十丁二百二十丁三百十一丁四百六丁
十七五十五丁ヨ注ー奉るが如く此三女神を合せ奉りて

古事記ヨ謂ゆる嬪后須勢理毘賣命是あり然れば右
の如く三柱神を各娶らせ給へる趣あれども其実ハ
三神の御身を合せて一柱ヨて大國主神ヨ合奉給へ
る事実きふ先心を著べき者ありー然るハ底筒男
命中筒男命表
筒男命ハ本より三柱ヨして其生坐る所以各別あり
と雖も此を合せて塩椎神と申奉る時ハ一神ヨて御
在ー坐底津ヨ童命中津ヨ童命表津ヨ童命と始ヨ
り三柱ヨ別れて成出させ給へりと雖も大綿津見神
と中奉る時ハ唯一神のミふて渡らせ給へるヨ同じ
きを其上ヨ右の三女神の御事ヨ田心姫命と申奉る
ハ健有(誥)姫の義狭依姫命と申奉るハ進動姫の義湍津姫
命と申奉るハ高出姫ヨ義ヨて共須勢理毘賣命ハ進
在姫の義あるヨて其義相等ーく共ヨ彼御誓の御時
ヨ天照太神の大御心の進し健び給へる御事ヨ因て
成出させ給へる謂ふ若て右の如く高比賣命六名下
を合せ思ふ可ー

二て其天若日子段ニ阿治志貴高日子根神ト云て次ニ其伊呂妹高比売命ト出タルニ此ト同ト〜

照比賣命と有之天孫降臨章下照姫の下に亦名高姫
亦名稚國玉と書さして混二方無きを地神本紀ニハ
二柱ニ分て下照姫命を奥都島神の御子と一高照光
姫大神命を遠都宮神の御子と為ルハ委しきニ過て
却て小事実に違ふ事ハ又右の古事記ニ所見なり
事代主神の御祖神屋楯比賣命ハ傳十五 三百六十七 十四百五十
丁ニ注ルが如く神ハ幾語ニ云て称辞ハ屋ハ其神
の御在一坐す御屋ハ楯ハ借字ニて建ル又高ハ
も通ふ可一出雲風土記ニ神門郡高岸郷郡家東北二
里所造天下大神御子阿遲須枳高日子命甚畫夜哭坐

仍其處高屋造之坐之即建高椅而登降養奉故云高岸
と有ル高屋の謂と聞ゆ又同郡多伎郷郡家南西廿里所造
天下大神御子阿陀加夜努志多伎吉比賣命坐之故云
多吉神亀三年改字多岐と有ル此姫命を内山真龍説ニ下照姫
命ニ為ル由云ルハ然ル言ふて阿陀加夜努志ハ大高屋
主と申す事ニて多伎吉ハ御祖の高津ニ因れル者ニ
て味耜高彦根命ニも高屋の故事有り下照姫命ニハ
大高屋の御名有り是其神屋楯比賣命の御名の據ル
り然ル時ハ高比賣命と下照比賣命とを別神ニして
ハ收り難く味耜高彦根神と事代主(命)神とを一神と

事代主神の御事を

見ざる時ハ事の相違へるが如し是を以て神屋猶比
賣命も須勢理毘賣命の例まて三女神を合せ奉れる
一柱の御名なる事を知べき者なり（問）但鎮座次第
命之子毋曰神猶媛と有て屋字無きハ其字眼を脱せ
る者と見ゆ其如くハ何の事とも聞えざるを如何ま
為む又傳十五巻四百五丁ま注る如く出雲風土記ま
謂ゆる八野若日女命と申すも神（註）命御子とハ有れ
ども実ハ此同神ま御在ー坐す御事ハ八野ハ屋主と
申す義ま て右ま同ト きを上二百七十八丁まに注
る参河風土記ま八名郡八名荘八名神社胸漢命ハ胸形神と聞ゆ
有る八野八名通音ま有るま胸漢命ハ胸形神と聞ゆ
をも亦一證ま備（神代）天孫降臨章を稽ふるま天稚
ニ可き者ま有む備
彦の所ま八味耜高彦根神の御名見えたるを国避の
御時の事ま八事代主神と有り其第一ニ書将然るか

古事記も其如くまて天若日子段まのミ阿治志貴高
日子根神と有を其国避の所ま八大国主神の御身自
ハ得之め難させ御在ー坐て其天神の御使ま僕者不
得白我子八重言代主神是可白云ふと白させ給ひけ
るま其神ハ諾奉らせ給へりーるハ故示問其大国主
神今汝子事代主神如此白訖亦有可白子乎於是亦白
之亦我子有建御名方神除此者無也と有て然計り重
き国避の大事をーも量給へるま唯事代主神建御名
方神のミ御在ー坐て味耜高彦根神の少るも関係（アツカ）る
せ給へる御事迹の一なる所見ざるハ此神ハーも御

父大國主神ゟ先立て已く天神ゟ歸順ハせ給へりと
も強て云むゝるれども其御兄と御在し坐す味耜高
彦根神を除て其餘御子等ゟ令問給ハむ事穏ゟざ
ゟを猶其上ゟ除此者無也と限りて白させ給へゟ御
言ゟ於ていハ他ゟ顧ゟ所更ゟ有べからぬ状ゟ
を思ゟ先ゟハ其傳の状ゟ依て味耜高彦根神と事
代主神との生坐ゟ次第を立て別こゟ書されれど
も其御天降段ゟ至りていハ事實の上ゟ取て右の如く
事の相違出来ゟと云も此ゟ疑を生す可き種ハひと
成て即其疑を啓きて味耜高彦根事代主神ハ本同神

ゟて渡ゟせ給ふ御事を慥ゟ見認ゟ御事とハ成れゟ
者ゟり猶又疑ふ可きハ事代主神ハ然ゟ大事をも定
めさせ給ふ程の甚止事無き神ゟて御在し坐ゟるゟ
其本國の出雲風土記ゟハ此も一所なる其神ゟ就た
ゟ故事ハ見えずして唯味耜高彦根神及其后神の御
上迄有ゟと其建御名方命を亦名の御穂須こ美命の
御名のミ有ゟも疑を起す可く又其ゟ次てハ播磨風
土記ゟむ大已貴神を始奉り其后神等御子神等の御
事迹多在りけゟを味耜高彦根神の御名ハ有れども
其余の御子等の中ゟ事代主神の御上の見えざゟも

亦其疑を容べき所なるハ実ハ其同神ゝ御在ー坐ゝ故なり又出雲風土記ゝ意宇郡賀茂神戸郡家東南卅四里所造天下大神命之御子阿遲須枳高日子命坐葛城賀茂社此神之神戸故云鴨神竟三年改二字賀茂と有ハ神名式大和國葛上郡高鴨阿治須岐詫彦根命神社四座並名神大月次相嘗新嘗の御事なるが高鴨ハ後の称ゝして本名鴨なるゝ即上四百九十二丁ゝ注るが如く鎮座次第ゝ葛城賀茂神社八重事代主命也と有ハ本より其賀茂と云ふ地名を以て社号と為るゝハ在れども元来賀茂と云ハ唯神と云事ゝ

ふゆゑを以なり式ゝ高市郡高市御県坐鴨事代主命神社と有ふと、其賀茂神社より移奉れりふとの所以有るべきゝ殊ゝ殊ゝ鴨の言を冠ス、也中せるを以て其謂有る事を知べき者

衍

て右の二神を尊を申せる称なり然ーして諸國ゝ在ゆる鴨神社ハ大旨事代主神ゝ御在ー坐す是其同神の證なり又山城國賀茂別雷神社を異本舊事紀ゝ味鉏高彦根命針間室神社山城鴨上宮同神又出雲大社小縁起ゝ山城國賀茂大明神當社第一王子阿式大明神也又神佛眞應編ゝ上賀茂味鉏高彦根神と有ゝ元暦奏上記ゝ自神代所鎮上社事代主命而已又賀茂下上吉懐記ゝ上賀茂別雷皇大神宮御本社事代主命と有ふど何れも共異名同神なり御事を知て書るゝハ非ら物ゝ賞ゝハ異名同神なるが故ゝ味鉏高彦根神とも事代主神とも傳ハれりし者なりけり又上四百六十四丁ゝ注るが如く賀茂朝臣大神

朝臣の上祖ハ一も大国主神より御子事代主神ゟ次
ゝ傳ハれるも右の鴨ハ主て事代主神ゟ係る事を知
べく又天神魂命建角身命より出たる賀茂縣主の中
ゟ鴨御祖と云ふ一家ハ賀茂朝臣と同紛ふりし者ふる
ゝ其祖を味耜高彦根神ゟ係け又都味歯八重事代大
人命亦云事代主神と有ゟて也其同神ふる由ハ知ら
ゝ此事已ゟ上四百六十六丁ゟ注りき猶詮と為べきハ神名式ゟ謂ゆる
伊豆國賀茂郡伊豆三島神社名神大月次新嘗ハ事代主神ゟ
御在ー坐て即摂津國島下郡三島鴨神社より移ら世
給ふ御神ふる事下五百二十ゟ注ー奉るが如ー然るゟ
傳十一四十五丁ハ二百七十三丁ゟ引る続後紀ゟ兼和七年九
月癸酉朔伊豆國言賀茂郡有造作島大名上津島此島
坐阿波神是三島大社本后也又坐物忌奈乃命即前社

御子神也と所見たる阿波神ハ天津羽ゝ神の略ふり
土佐風土記ゟ土左郡有朝倉郷郷中有社神名天津羽
ゝ神天石帆別命今天石門別神子也と有を神名式ゟ土
佐郡朝倉神社吾川郡天石門別安國玉主天神社と有
ら是ゟて天孫降臨章ゟ謂ゆる天國玉神即其天石帆
別命の御事ふるを知れるゟ天國玉之子天稚彦と有
て其父子ふる事も亦知るゝゟ味耜高彦根神の妹
（就て奬味耜高彦根神友善と有り然るゟ）
下照姫命ハ一も其妻と成給へるゟ彼返矢の事ゟ依
て天稚彦の身亡られけるゟ故味耜高彦根神昇天予
天と云事の御在ー坐すハ其天國玉神の女天津羽ゝ

神の御女天津羽々神を娶給へるが故ゑ味耜高彦根
神の后神の為ゑ天稚彦ハ兄弟ゑり（又天稚彦が妻下照
姫命の為ゑハ御兄ゑ生れバ其友善と有る事の趣ゑ
於て実ゑ然御在し生つ可き御事ゑり然るを右の続
後紀の如くハ事代主神の后神ゑり本后と有ハ甚味
耜高彦根神と聞えさせし時ゑ娶給へるを以ゑ
り（此差別ゑ就て説有り下十六百四十ゑ云べし）故伊豆國神階帳ゑ正一位三島大明神一品后宮一
品當后宮と書せる后宮ハ其本后阿波咩命ゑ御在し
生べく當后宮ハ伊古奈比賣命ゑ（即此）し溝擦姫命
ゑて渡らせ給ふ可き御事申すも更ゑり若て出雲風

土記ゑ揖保郡神名樋山（略）古老傳云阿遲須枳高日子
命之后天御梶日女命来坐多久村産給多伎都比古命
尓時教詔汝命之御社之向位欲生此處宜也所謂石神
者即是多伎都比古之御魂當旱乞雨時必令零也と有
る天（津）御梶日女命ハ決く天津羽々神の御事ゑ御在
し生ゑる可し然思ゆる由ハ傳廿二百七十ゑ注るが
如く紹運録ゑ月讀命子手力雄命弟島根見命と有て
其手力雄命子生馬武見命と系を係たるゑ其異本ゑ
ハ月読命子手力雄命弟島根見命と有て其島根見命
子生馬武見命と紂を引たるゑ一本神系圖ゑ月弓尊

島根見命と有て手力雄命の御名無く神代系圖傳ハ
月讀尊子島根見命弟手力雄命子生馬武見命弟戸倉
邊命と有て異同も有る事ハ有れども月讀尊御子と云
事ハ本より異なる傳なる物なり島根見命と島根郡
と合ひ生馬武見命と生馬郷と合るを以ても申無し
とハ云べからざるハ其手力雄命を多久豆玉命とも
申せるハ右の多久村の地名等しきを此神即天石門
別命なりて彼天石帆別命の御事なりけれバ如此く
其事実を攻て即天御梶日女命ハ天津羽と神なりて
右ハ謂ゆる朝倉神の御事知らざるなり味耜高彦根

神と事代主神と正しく一神なて御在しを御事ハ
知らるゝ多なり然れとも天御梶日女命亦名天津羽と神と申す時ハ本后
なりて味耜高彦根神ハ屬き伊古奈比賣命亦名溝樴
姫命と申す時ハ即當后ふりて事代主神ハ屬たる御
事多り能く其差別有る事を忘る可らずなり傳其
神ハ就て今思寄ふる奇説有り其ハ右ハ云る土佐國
朝倉神社ハ其始大和国ハ御在しを坐けしと思ゆ雄略
天皇前御紀ハ天皇命有司設壇於泊瀬朝倉即天皇位
遂之宮焉と有ハ長谷ハ朝倉と云土地の有ハ就て
其處ハ都を定させ給へる歟然るハ姓氏録諸蕃
秦忌寸條ハ大泊瀬稚武天皇御世云云爰率秦民養蚕
織絹盛筵貢進如丘如山積蓄朝庭天皇喜之特降竜命
賜号曰禹都萬佐是盈積有利益之義役其秦氏攝八丈
大藏於宮側納其貢物改名其地曰長谷朝倉宮と有
る事なれども其十五年御紀ハ秦氏分散臣連等各隨

山城国

欲駈使勿〻奏造由是秦酒公以為憂而仕於天皇云〻
仍領率百八十種勝献庸調絹縑充積朝廷因賜姓曰禹
豆麻佐と有て左京諸蕃上太秦公宿禰の条同下きを
其等族ふる同下秦氏より其説の異ふる可くも非
りければ左の八丈大蔵の事より因て長谷朝倉宮と云
説は疑ふ〻くは和名抄に校倉阿世久良と云事より思
寄せたる附会説ふる可し且其郡を定させ給ふと為
て宮号を設ふるも其十五年より至
りて漸く朝倉宮の号の定まる事甚し思東垂き事
ふりければ本より然る地名ふる宮号ふりければ其
より依て然る推度の事を設たりけむも知べからず偖ゆ
其朝倉を古き地名と見て考るも其七年御紀より謂ゆ
る一事主神の御事を右四百九十八丁より注るが如く
土佐風土記には高鴨神と有り然して此朝倉の地より
其石神天津羽二神は當音御在し坐けるを其長谷朝
倉宮と敷せ給ふと為て佗に移し奉ふと為させ給ひ
けむ〻其荒魂一事主神の出させ御在し坐て屢其
御狩を妨げ聞えさせ給ふとて為させ給へりけむを
天皇の御怒坐て其高鴨神と共に朝倉神をも共に土
佐に移し給へる故に彼国に朝倉神社は御在し坐に

ず有べき（猶下千五十九丁葛上郡高鴨神社の所に云を考へ合す可し）右の外に非ずとも其長谷朝倉宮の地
の事を帝王編年記には城上郡磐坂宮也と云ひ大和志
には葛城郡磐坂宮也と云ひ黒崎村に隣りて引続
きに出雲村と云有て右の二村と合せて一里の内と
も云べき地理ふる事必其本国に就て所以無て号く可
村名に傳ふる者ふり然る〻は右の天御梶日女命を高鴨に
坐す味耜高彦根神の此国に移り給ひし時に共に御
在し坐て此朝倉の地に神代より以降御在し坐けむ
と見ての説ふるが其天御梶日女命と天津羽二神と
共に正しく一神ふる事を心の底ひ諾ひ知れる人ふ
ては難き事ふり然思寄れる事を云ざるむも心
行ぬ事に有ければ千載の下に
見知れるむ唯一人の為に云のみ 偖然味耜高彦根神
事代主神は同神と申奉る御上にても尋常に云に亦
名の例とは少く異ふる所有て実には味耜高彦根神
と聞えさするは其御本体の御名にて渡らせ給ひ事

代主神と申奉るハ其和魂の御名なり御在し坐す御
事已上四百九十三丁なり旦し注るが如し故其味耜高彦
根神を其御本体の御名と申奉る證ハ味ハ記傳十一
五十七丁なり可美と同意なり称名と云れたるハ然る言ふ
て耜ハ字の如く農具の鋤是なり然るハ國作の宝器
と為て御父大國主大神より受賜ひけり奉給ひけり
一傍此ハ傳廿三 二百三十七丁二百五十三丁なり注せるが如
十二丁二百八十七丁なり
く出雲風土記ハ意宇郡出雲神戸郡家南西二里廿歩
伊弉奈枳乃麻奈子坐熊野加武呂乃命五百津鉏神鉏
所取二而所造天下大穴持命二所大神等依奉故云神

戸と有ハ即其熊野神宮と大巳貴神との神戸を充定
めさせ御在し坐て其國造の神物を大巳貴神ゑ授進
らせ給へる由なり若て傳廿九 百八十五丁 ゑ引る本朝事
始ゑ鉏須賀有天八鉏有神田斎 鍬大巳貴命典少彦名
命同心合力製之專為民用と見え鍬久和有大和鍬有神
田齋鍬但奉坂穂使齋鉏齋鍬者是同前と有て大巳貴
神少彦名神の國作の御時ゑ其製此ゑ定れり其齋鉏
齋鍬の称有を以ても甚止事無き神宝ゑ持齋ゝせ御
在し坐けゝ御事ハ知られたり若て少彦名神ハ常世
郷ゑ渡らせ御在し坐けゝ後い大巳貴神唯一柱のミ

國作らせ御在し坐けるを彼謂ゆる百八十神と數多の御子等も御在し坐つる中に其鉏を以て味耜高彦根神と御名を負せ給へるハ專御父大神の御功業を繼奉らせ給へるが故なる事炳然くなるも有けり其證と成す可きハ上百五十九丁百八十六丁に條に注るが如く播磨風土記に神埼郡多駝里所以云邑日野者阿遲須伎高日古尼命神在於新次神社造神宮於此野之時意保和知苅廻爲院故名邑日野ハ即神名式に見えたる新次神社の故事是なり何を以て新次神(社)と申すとかハ御父大神より國作の表物を受奉らせ給ひて專

其御功業を始物爲させ給ふ由以て称奉れるなて新鉏神と申す義の御名なる可し其讃容郡邑宝里の文に鎏柄川神日子命之鎏柄令採此山故其山之川号鎏柄川と有ハ鉏ふハ非ずて鍬の事なれども次に引く文の如く鉏鍬相並べ用る物なれ在けれバ其も正しく此味耜高彦根神の故事なるふて神日子命と申すハ此其御名を省きて傳へたる者と所見たり是を以て其味耜高彦根神と申奉る御名ハ素戔嗚大神より次に國作の神器を傳へさせ給ひて其御功業を天下に立させ御在し坐す謂なる者なり世に實ハしも

多く在れども此鉏鍬ハ一と國土經營の古すりして
田地を耕種す宝器なれ如此く神の御名はさへ負せ
奉るを以ても大緣の神宝ハ非りけり　記傳十一巻五十七丁ふ
志賀い磯城なて石して築たる城の固きを以て賀た
る名なやえてとえれたれども然る居地ハ就て称奉
れるハ非ず此ハ其行事ハ因て御名ハ負せ給へる
御事を思ひ漏されたり一者ありけり然れども右ハ
引る播磨風土記ふどの未世ハ且て猶其船ハ依て國
出ざりし程なれば如何ハ為むい
作の御功ハ因れる御名ふる證ハ傳世六　百五十三　上
六丁　十
一ハ已ハ引る丹波國鍬山社緣起ハ原夫玄古天地開
闢而神功既畢雲運方遷矣自後亦出雲洲大己貴神巡
行始到此洲為此洲也鳴水懷山渺浪排空故神領八神

南方到黒柄嶽視水脉地勢逆流西下矣今水戸峠是也
東方見山狹可通水而鑿山劈磐順流決之神始取鍬成
此洲里給依之崇奉鍬山大神と有ハ神名式ハ謂ゆ
る桒田郡鍬山神社是ふるる此ハ大己貴神ハ御在し
坐て鍬を以て神体と為させ給へるが郡名の桒田も
鍬田ハ出たる可し其八子と有ハ大山咋神を始と為
て其余の御子等を甲せる ふり又丹波國湖水考ハ請
田神社傳記ハ曰遂古世丹波國湖也大山咋神決其水涸
而後為家郷及田地於是尊崇此神德祠之以称桒田浮
田明神以鋤為神体と見え山城名勝志ハ以鋤為神体

社坐丹波國保津邑浮田明神或云此説亘従と有り浮田明神
ハ即其京田郡松尾神社是なり又神代系圖傳まし大
山咋神決丹波國湖水涸而成土矣以鋤為神体者山城
國松尾大神也と見え羅山文集まし又有浮田明神祠
世傳遂古之世丹波國皆湖也其水赤故曰丹波大山咋
神穿浮田決其湖於是丹波水枯成土乃建祠而祭之
以鋤為神之主此神即是松尾大神也と有り其水赤故
曰丹波と有りて又ハ愚説なりけれ大山咋神の鋤を
以て山を穿ち水を決りて其國を作給へり御事ま
於てハ今も土俗此を傳へて甚と正しき古説まなむ

有けり故其鋤ハ浮田松尾神社より山城國葛野郡松尾
神社二座並名神大月次相嘗新嘗小渡奉りて其神主まて御在
坐す事右の系圖傳の趣を以て曉り可き者なりし
備古事記まハ其大山咋神をも傳の混れ有て大
年神の御子の列まに数られたれども其ハ慥まに味耜高
彦神まて渡らせ給ふ御事を見定めて傳十二九十七丁百七
丁十五三百五十三丁廿六百五十二丁まを注奉るが如くなれバ
愈其神鋤を即取坐て國作の御德を成させ給へり
御事まに於て甚限なくなむ有けり且又神名式
なる若狭國大飯郡大飯神社の社傳まに猿田彦命往古

此邊の田を開發給へり故大飯鍬立明神と申す神体ハ鋤鍬にて渡らせ給へり土人畠を作始る事を鍬立（立）と云ふと云る其神ハ上（二百五十六丁）に注るが如く正身ハ事代主神にて渡らせ給ハれハ即此味耜高彦根神に御在ー坐す御事申すも更なり猶此御神の御事及其后神等御ー子神等の御事委ーくハ下（千二十八丁）に古事記を引て注ー奉てむくー如此く推以て行く時ハ味耜高彦根神と申奉るハ全く国土経営の御事に係れる御名なる事灼然き者なり故右に條に注るが如く天稚彦の件迄ハ其味耜高彦根神と有も當首專国作の御事のみ主くしき御故に其外に事ーも非るが故なる可く思ゆ但国避の御時に至りて共御業の止めるに非れども其所にて事代主神と申す方にて專御事業の御在ー

坐べき所以有が為なり次に事代主神古事記御天降段にハ八重言代主神と見え大三輪神三社鎮座次第にも八重事代主命と有り姓氏録（大和国神別地祇）長柄首條にハ天乃八重事代主神同長公條にハ積羽八重事代主命と見え地神本紀にハ都（味）歯八重事代主神に作り神名式にハ都波八重事代主命と有を一本都味（歯）波と有れども大同類聚方にも都波八重事代主命と作れば古くより然有きても申せる所なりけり又鴨脚家系にハ都味歯八重事代大人命と有ハ殊に委ーき申し状なり偖其事代主神と申奉るハ傳廿九（二十一丁）に注るが如く御

父大國主神の和魂大物主神を委しくいハ大物代主神
とも物代主神とも称奉るに對へて申す御名なり此
も味耜高彦根神の和魂の御事なるも御在ー坐を具
事と云ハ物の對にて其物と云い体なり事と云ハ其
用を云事にて和漢共に古今に亘りて然る事誰しも
能知れるが如ー代主ハ知主にて此二柱神の相待別
て物を知る事を知るとの御行事に因て御名に称奉れ
る者なりけり故天孫降臨章第二ノ一書大己貴神の國
土を天神御子に避奉らせ給へる後に是時歸順之主
渠者大物主神及事代主神乃合八十萬神於天高市命

以昇天陳其（術）誠欵之至時高皇産靈尊勅大物主神
（中略）宜領八十萬神永為皇孫奉護乃使還降之と有を纂
疏に八十萬神皆紀屬於大物主之神也と注させ給へ
る如くにて物を知ると云義此に在る事多り若て古事
記に所見なる（其）大國主神の國避の以前に僕者不得
白我子八重言代主神是可白と申給へるハ即事を知
らせ御在ー坐す謂此に在り又次に僕者於百不足八
十坰手隱而侍亦僕子等百八十神者即八重事代主神
為神之御尾前而仕奉者違神者非也と白給へるも其事
を執持ーの給へるにて事代主神と申す所以を述さ

せ給へるなり此御事の結も申す可きハ天武天皇元年御紀ニ高市郡大領高市縣主許梅倏忽口開不能言也三日之後方著神以言吾者高市社所居名事代主神又年狹社所居名生雷神也（者）乃頭之曰（中略）便亦言吾者立皇御孫命之前後以送奉于不破而還焉今且立官軍中守護之（下略）と有も右の神代の御契約違へさせ給ハずして其御尾前ニ御立ー御在ー坐て奉護らせ給へるなるが其率させ給へる百八十神ハ御父大（物）神ニ屬奉る御事なりけれバ大物主神の所知者させ給ふ御事ハ申すも更なり然れとも其百八十神を進退（カシヒキ）ー

給ふ御政ハ事代主神の御職ニ即在ー坐なり是事を知ニ非ずして何とかハ云ふ可き記傳十一巻六十五十ニ代ハ出雲神賀詞ニ神乃礼自利と有ハ他の祝詞ニ礼代と有て同ト事ニて利ハ留志の約れるなて礼の志留志と云事なり紀ニ物実此云望能志呂と訓る是ニ同く事代ハ事の志留志なり然号けー所申ハ下文ニ神即踊頭其船而天逆手矣於青柴垣打成而隱也と有る此天下を皇御孫命ニ避奉給ふ事の志留志なり云と云れたれども此ハ甚理無き事なり（本ノマヽ）事代主神と申す御名の其避奉りー以後ニ出来れりと云ふ思ふニ天雅彦の所以前ニハ何とハ称奉れるとハ云ふ其ニハ味耜高彦根神と出同避の前後ニハ事代主神の御名を以て傳られたる紀記の文法なれども其ニハ上件の如く謂れ有る御事なるを思漏されたる者なり若て本田氏の玉襷ニ其を我物ニて事代言と云ハ事の信を立る義なりと云り然れども神代ニ信の字音を以て神名ニ負せ奉るむ事ハ余ニ痴くーくて物と云れ侍らず為む唯記傳の一説ニ代ハ領の意ニ

も有むと云ふ事代ハ右の如くなる時ハ
事知の義と云るゝ近うりけり
味耜高彦根神ハ其本体ゝして大国主神ゝ對ハせ給
ひ事代主神ハ其和魂ゝして大物主神ゝ属奉らせ御
在ー坐ける御事決き者なるが右の天孫降臨章第二ノ
一書大物主神及事代主神と有る御事ゝ思合す可き
ハ上四百九十二丁ゝ注るが如く鎮座次第ゝ其大三輪神三
社の別宮第一ゝ葛城賀茂神社ハ重事代主命也と有
て下ゝ瑞籬宮御宇天皇御世云こ兼勅立社於葛城邑
賀茂地奉齋事代主命と有ハ全く大三輪ゝ御在ー坐
ー御霊を其事代主神ゝ申緒有て賀茂ゝ移奉るれー

御事なむ著明なりけれハ是正ー く大物主神ゝ事代
主神相對ハせ御在ー坐て共ゝ(其)和魂神ゝして渡らせ御
在ー坐す證見なり偖右件云るが如く事代主ハ事知
主の義なるゝ就て万葉十二ノ二十八丁問答歌ゝ不想乎想
常云者真鳥住卯名手乃杜之神思将御知と有ハ世ゝ
名高き歌なるゝ依て已ゝ先輩の説定れりと雖も其
ゝ答へて足千根乃母之呂名乎雖白路行人乎就跡知
而可と有る歌意を云る人無ゝ依て今云べー上句ハ
母(所)も知る許ゝ思ふ人(なるもゝハ其人)を何某なりと云も為
つ可なり(り)ゝむを路行人とハ想ふや思ハざるや難測

き人を指云ふり誰跡知而可ハ其想（こゝ人とハ誰ゝハ知む）
（母ハ如何ゝ云ハ）（ハさる狀ゝ）
と云ふて卯名年乃杜の神ー
知さむと云とも現ふ母の心ふも入ふ許其志の見ゆ
る人ふふでハ猶頻ゝ難ーと詰答ハ乃ふ者ふーて是
事代主神の御名をハ事を識の義ふ取成ーたふ物ふ
ふが其も終ふハ事知の義ふ落めり此杜の事ハ猶下
七百五（十）丁ふ云ハ—故其八重事代主命と申す八重ハ百
重千重ふどの如く其事の大ふふを取紛させ給ふ義
ふて其對ふふ大物代主神の大と同トふふむを天孫
降臨章ふ因於海中造八重蒼柴籬と有ふ引付ーい事（云事ふふが積羽八重ノ事）

代主神と續ふバこふ有め八重事代主神天八重事代
主神と云ふハ更ふ何の事とし難辨き者ふふをや備
其積羽ハ都波とも云を以考ふふ此ハ八重と云む發
語ふふ可ー和名抄ふ劔具ふ鐔（和名都美波）劔鼻也と有を
見原の釋名ふ都美波ハ留（ツミハ）又ふり今略ーて都擽と云
と云ふ是ふり上世の劔ふハ鐔を二重ふ用たりー故
ふ八重の發語と為ふ故ふ八重事代主神の御名の上
ふ積羽とも都波とも置て謂ゆふ薦枕高御産巣日神
真髮綱奇稲田媛命の例ふ称奉りー者ふりけふー又
其天八重事代主神と申すハ大物主神と共ふ天上ふ

参上ゝせ給ハりー御事ふどゝ因ル多ゝ可ー但姓氏録
大和国神別天神ゝ飛鳥直天事代主命之後也と有ゝ
是ハ左京神別中天神ゝ訓尾直天辞代命子国辞代命
之後也と有ゝ是ゝ神名式神祇官西院祭神ハ座と
有ゝ中の事代主神ゝ御在ー坐ハ祝詞式ゝ辞代主と
作れたゝ是正字ゝして辞ハ言の義ゝ其別神ゝて
御在ー坐ハ御事已ゝ雋廿二巻五十三丁ゝ注ゝ
如くふれハ此を一ゝ故其荒魂を一事主神と申奉り
為べゝ者ゝ

當麻寺縁起ゝ又圓堂の前ゝ一言主神来座の石有り
抑此明神ハ地祇の根本大已貴神の嫡子事代主神ゝ
て御在ー坐す」と云ゝハ古き傳の有けゝ不ゝ神代
系圖傳大已貴命の御子の中ゝ葛城一言主神の御名
を挙て一為事代主神所愛一為高彦根命分身と書し

又神社本記小春日若宮外院の一言主神ゝ葛木明神ゝ書ーて下ふ事代主神ゝ高彦根神ゝ有ゝ

又其縁起ゝ據て一言主神此神者大已貴神之子事代主
神也云ゝと書せり今備其荒魂ゝ多ゝ證ハ雄略天皇四年
御紀ゝ天皇葛城山ゝ射猟ー給へゝ時ゝ一事主神の
現れ御在ー坐ー御事を古事記ゝハ其神の御言ゝ吾
先見問故吾先為名告吾者雖悪事而一言雖善事而一
言言離之神葛城之一言主之大神者也天皇於是惶畏
而言恐我大神有宇都志意美者不覺白而大御刀及弓
矢始而脱百官人等所服之衣服以拜獻中略故是一言主之
大神者彼時所顕也と有ゝ言離ハ土佐風土記ゝ言放
と作り記傳四十二十一ゝ許登佐加と訓べー神代巻

み泉津事解之男孝德天皇御巻ヶ事瑕此云居騰作柯
と有る是等小依れり」と云れたれども其ハ離別の意
なり申傳十三 四十二丁 み注る如く其義此と異ふりけれ
バ延佐本ハ伊比波那都と有ハ依て訓べし如此して
悪事も一言ハ言放ち善事も一言ハ言放ち定め断わ
らせ給ふ由を以て一言主神と御名ハ負ひ給へる是
荒魂神ハて渡らせ給へるが故なり靖晩日記ハ然も
とるハ葛城山ハ馴たるめ唯一言や限りけり」と詠
るも其言放つと云事ハ思寄せて詠る事著明き者か
り此ハ就て上 四百九十九丁 ハ引る土佐風土記ハ土佐郡に

家西去四里有土左高賀茂大社其神名為一言主立尊一
説曰大穴六道尊子味耜高彦根尊雄略天皇四年庚子
春二月獵于葛城山忽有長人云云或説云時神與天皇
相競有不遜之言天皇大瞋奉移土佐神隨而降神身已
隱以祝代之初坐賀茂之地後迁于此社而高野天皇宝
字八年従五位上高賀茂朝臣田守等奏而奉迎鎮於葛
城山東下高宮岡上其和魂者猶留彼國于今祭祠云云
と有る初坐賀茂之地ハ神名式ハ幡多郡賀茂神社と
有を云ひ後迁于此社ハ土佐國郡郡佐坐神社大と有
る是ふり葛城山東下高宮岡上ハ大和國葛上郡葛木

坐一言主神社（名神大月次相嘗新嘗）の御事を申し其和魂者猶
留彼國于今祭祠と有ハ右の都佐坐神社大小ハ猶其
和魂を留めさせ給へる由なり是を以て一事主神ハ
正しく荒魂なて渡らせ給へる御事著明くあむ有け
ら但右の風土記の趣なてハ其社ハ味耜高彦根神な
て御在し坐せバ其神をしも一事主神の荒魂と指な
似たりと雖も殊な其和魂ハ御本体な近く御在し坐
せバ事の違へるハ非ら事右五百三十六丁（高賀茂朝臣之共な）な注らが如く
都佐國造の出自ハ事代主神な坐なも思及ぼす可き
者あるべし即大和風土記な葛城郷葛城山に上有

神号葛城神所祭一言主神せと有り文徳天皇実録か
嘉祥三年十月乙巳朔辛亥大和國葛木一言主神授正
三位三代実録な貞観元年正月廿七日甲申奉授大和
國正三位勲二等葛木一言主神従二位と所見なり又
葛下郡鴨田坐一言尼古神社（大月次新嘗）兼永本な尼を尾
な作れり然ら時ハ一言尼古神とも一言彦神とも申
すらるべし（右）同時な奉授大和國従五位下鴨田一事尼
古神従五位上と有も次く同神なり又越前國大野郡
坂門一事神社見え又同十五年九月十六日戊寅授肥
前國正六位上葛木一言主神従五位下と有ハ共な大

知より勸請ル者と所見なり　又記傳ハ山城国下鴨社内ヨリ一言二言三言社と云有と云り　続古今集神祇賀茂氏久君を祈る唯一言の神の宮ニ心無き程ハ知るゝ」と有り鴨神饌記ハ一言高彦根命ニ言下照媛命三言天神魂命と有て七言社迄有り或ハ大已貴神の七名を祀こし云り又山城名迹志ハ一言主社在宮倉星北五町許社西向社記不考霊應の事人口ハ在りと云り其近傍ハ鋤上水名義不詳と云ふハ味耜高彦根神ハ所以有る井なるなム○化為八尋熊鰐ハ女神の正身ハ一も靈ハ渡らせ給ふを為ハ殊更ハ如此く御姿を変させ給へる御事と所見なり靈の男ハ化て女ハ娶る事ハ古より多き事なり　ハ此ハ其とハ相替りたる事なるハ必所由有る御事なるゝ可き由次第五百五十五ハ注ハ明らめ奉るゝ如ハ海宮

遊行章第三一書ハ豊玉姫命の御事を化為八尋大熊鰐匍匐迩蛇第七一書ハ化為八尋大鰐と見え古事記ハも化八尋和迩而匍匐委蛇と有るハ其正書ハ化為龍と有り此を以て靈と鰐とハ同種の物なて龍の類なる事なむ著なりけるハ摂津風土記ハ昔有大神云天津鰐化為鷺而下止此山十人往者五人去五人留有久波乎者来此山伏下樋而屆於神許従此樋内通而待祭由是日下樋山と有る大神ハ傳十百十七丁ハ引ハ常陸風土記ハ新治郡驛家名曰大神所以然称者大蛇多在因名駅名と有る是なて靈の事なり天津鰐ハ

○賀茂下上を懐記ハ神楽岡火雷神の別社ハ一言主社内院辰巳方ニ有り又

△此神の土佐ハ移さ化給へる時ハ朝倉神ハ共御在ニ坐けむ」思ゆる由有り右五百七十六丁の細書ハ云り考合す可ニ

（然れば下六百十五引く播磨風土記に謂ふ伊和大神と石龍比古命石龍比賣命いしもちの事代主神玉櫛姫命なり御在り坐す可き石龍とは鯨なり堅魚甲有り謂ふ）

其大神の形容は就て此方より云ふて彼は其名有る非る事本より化為鷲は其下樋を伏すり溝中を入る所變化て出るを見認むる申ふり伏下樋而屈於神許從此樋内通而祷祭と云ふ其傍近く至る者有れば鷲と化出て鷙殺ふ事ども為けむる樋内より通りて鰐の正身よて坐す所に到りて祭れる由ふり是靈と鰐とい共同類ふり證ふり和名抄龍魚類は鰐和名和仁似鱉有四足喙長三尺甚利齒虎及大鹿渡水鰐擊之皆中斷と有て猛き物ふるが漢籍は此を鰐龍（鮫龍ふ）とし云て龍の属と為る也然る言ふり傍八尋熊鰐と云ふ八尋は尋常ふ

（常）

ると殊更は大ふる由ふるが熊は熊鷲熊鷲熊笹ふど云類ふて勝れて物の形の大ふる物は一目よは見渡し難きが如くして限りしき所有を以て云ふりけれが其八尋ふりけむは屈曲（ふり）の有て實ふ熊鰐と云ふ状ふりけむ事を思ふ可し然れば古ふ紀記共は海神の乘ける馬をば一尋鰐とは見えたりけれども此は限りて一尋熊鰐とは云ざりけれ纂疏は鰐魚形色似熊故曰熊鰐と有る事ふれども其形色の似たりと云はば右の熊鷲熊鷲熊笹の類を如何とり為む又通證は洽聞記曰鰐魚熊能制之秋化為虎三瓜出南海と有れとも右の和名抄の如くは鰐は熊は制せらるる事如何但其は左も右も在れば此は謂ゆる熊鰐は然る意とは大は異ふる者

又肥前風土記ニ佐嘉郡佐嘉川ノ川上有二石神名曰荒田姫為二神年常一逆流潛上到二此神処一海底小魚多相従之或人漁其魚者無殃或人捕食者有死亡山魚等經二三日還而入海と有ハ川上ニ石神ヲ立テ給ヘル由名を荒田姫と云て海中ニ住給ヘルが神年常と化て時々上り浴上と云ふ可し神年常の下ニ譜ニ鰐魚と注して此も人の鰐魚ニ化ル例なり

畏

ふりて○化為ハ其溝樹姫命ハ一も正身ハ鼈ニて渡ラせ給ふ事ハ此ハ事代主神の八尋熊鰐ニ化為ラせ御在ー給けるが此事を猶深く思ふ其始玉櫛姫命と申す藻ー き女神ニて御在ー給けむと事代主神の婚給ふ事ニ當りて其女神の辭退び申ーて鼈ニ成て去給ひー故ニ事代主神ハ一も鰐ニ成て追奉らせ給へりと見ゆ然ーて其始て婚ばせ給へるハ出雲ニての御事ニて其御合坐ラるむ摂津國の三島なりけりー其ハ上五百六十五丁ニ注ルが如く出雲風土記ニ仁多郡恋山郡家正南廿三里 古老傳云和尓慈

阿伊村笠神玉日女命而上到尓時玉日女命以石塞川不得會所慈故云恋山と有ハ今阿伎郷志多布留山是なりと云り其阿伊村ハ阿伊川源出郡家正南廿七里遊託山北流入斐伊河上有年魚麻須と有ラ是なるが次ニ阿伎川源出郡家西南五十里御坂山入斐伊河上有年魚麻須と有て阿伊と阿伎と名を分て化ども 右の遊託山御坂山より係て恵山の地ニ至ラ迄和名抄ニ謂ゆる阿伎郷是なり(ハ)が摂津國島下郡安威郷と必由有げなる事なりけり若て其知尓ハ此ニ見えたる事代主神の化給ヘルなりつゝむを其神玉日女命即其

事を知て元の身より復り給ひて其慕ひ来る和尓の為て石を以て川を塞て其道を断て舎せ給ハざりしかとめり若て同郡三津郷郡家西南廿五里大神大穴持命御子阿遲須枳高日子命云こと有て味耜高彦根神と申す御名の方まて故事有る所なるが恵山ハ郡家正南廿三里と有れハ甚近き所なるまも心を著べく又概津國なも三津の地有て世まも名高きも由有げなる事共なり上二百四十四丁まで注るが如く和名抄まも概津国東生郡味原郷有り神名式まも阿遲速雄神社風土記まも味鉏山昔味鉏高日子根神坐故云味鉏山後号味原山と見え雖波古図まも高彦崎と云地有も皆此神まも出なり可し故其時ハ女神の辞び給へるが為まも得要

せ給ハざりつるを後まも三島まも到るせ御在し坐て終まも御心の本意遂させ給へる御事と推量り奉るる風土記の或抄まも恵山今云阿位郷志多布留山此處河口断崖堆重崎堰嶮岨也と有ハ現まも在る状まて女神の御勢将並との神まハ御在し坐ざりけるなりけり偖其風土記まも謂ゆる出雲郡出雲御埼山ハ古事記まも所見なる字迦山是なるが後まも鰐淵山と云るハ若くハ此時の故事まも依て然る名の傳ハれるまも猶能考ふ可き事共なり若て此事代主神の本后を阿波咩命と申奉るハ右五百七十四丁まも注るが如く天石帆別命の御女

（但羽ニハ拾遺ニ今俗衣服謂之白羽ト有リ其実ヲトモ思ハレ田有テ下ナニホ注ヲ何レノ其宜キヲ従上可ー）

ミて御在ー坐を其天津羽ニ神ニ申奉ル羽ニハ傳世八十寸乃以天瓊矛之劔斬彼大蛇と有ル此劔を古語拾遺ニ其名天羽ニ斬古語羽大蛇謂之羽ニ言斬蛇也と有ル羽ニと同トキを思フ其阿波咩神ハ大蛇（掬縫郡）の神ニて坐す状ナリ右五百七十四丁ニ引ル出雲風土記ニ神名樋山（中略）古老傳云阿遲須枳高日子命之石天御梶日女命来坐多久村産給多伎都比古命（中略）所謂石神者即是多伎都比古之御魂（當）曾旱乞雨時必令零也と有て其生（生）坐ル御子ニ瀧津彦と云フ御名を負坐ー又雨を乞ヒ必零せ給ヘル事御祖の大蛇神ニ合リ

右ハ本后神の御上の較略ナリ然ーて今茲ニ當后神とーて溝樴姫命を娶ラせ給ヘルも靈神ニて渡ラせ給ヘルが如此く前後二度共ニ然ル御女神等を娶ラせ給フと云ハ國土の始ハ（小）ーて上二百九十丁ニ注ルが如く尾張風土記ニ海部郡箭野山（中略）亦山嶺之深處有杜（牡）蠣是昔海変為山之處也と見エ播磨風土記ニ宍禾郡伊加麻川大神占國之時烏賊在於此川故曰烏賊間川と有ル如く海水の山岳を浸ーて國ハ甚狭きが上ニ古丹波國但馬國（甲変国）信濃國出羽國ふどの山中ニハ大ニ水を湛ヘて海を成ーけるを國作の御時ニ山を穿ち

○出雲神賀詞なる大穴持命の御言なる事代主命乃御魂を宇奈提に坐と宣へるも今は雲嶺村の地名なる物〻〻溝い御紀に宇奈堤と訓て俗に云ふ丹千の事なるべし其溝機姫の溝と同じきは天の深き所以有る事なるべし

水を通して各國土と成給へり〻故事已に傳廿九百十丁上三十丁以下に悉く注る如くなれば此事代主神は〻も專水理を治めさせ給ひて國を弘めさせ給ふ御功業を天下に立させ給ふ御為に右等の女神は〻も要〻せ御在〻坐けるなりけり故亦名を大山咋神と申奉るは咋は泳と同じく山を穿たと給ふ謂なり別雷神と申奉るは大に土を別させ給ふ義なり又諸國にて大井神社と崇奉る式社は更なり大井と云る地名多くは此神の神逝なるに合せて其后神等と共に其御力を合さ。御在〻坐て共に其御功業を成さ

せ給ひしとの神量なり御在〻坐べうなり〻〻然るに御父大神の稚羽の八上比賣命を婚ひ坐て御井神を令生給へるは謂ゆる生井福井津長井の三神と別れ御在〻坐て各其御功を令立給へるは然る物なれて其八上比賣命と聞えさするは傳せる卷八十二丁に注るが如く此も靈神にて御在〻坐すを又大物主神も此溝機姫の御姉蹈鞴姫を娶〻せ給へる其は上五百四十八丁に注るが如く播磨風土記に謂ゆる安師比賣神次く是にて雨師神の謂なるも即靈神にて御在〻坐すなるも思及す可き事なるべし○三島溝樴姫は神武天皇庚申年御紀に三島溝樴耳神之女玉櫛媛と見え地神本紀には三島溝杭女活玉依姫と書〻大三輪神三社鎮座次第には三島溝海樴耳小女玉櫛媛と有て上に大物主神の娶給へる三島溝樴耳大女蹈鞴媛と有に對るなり

先其三島溝橛耳神の御事より明らめ奉る可し先此三島ハ傳十百三十一丁十一三十九丁より注るが如く摂津國の地名なり故大倭神社注進状ハ溝橛姫摂津國三島之人神名帳摂津國島下郡溝咋神社一座と有り其妖事代主神ハ謂ゆる三島鴨神社是なり此を以て三島溝橛耳神三島溝樴姫等の三島ハ大神大物主神鴨事代主神などの状ハ其御在し坐す地名を冠らしたるのみにして三島某神と続きて神名と成ふ非ずなむ有けり此地名の古き伊豫風土記ハ宇智郡御座神御名大山積神一名和多志大神也是神者所顕難波高津宮

御宇天皇に徳御世此神自百済國度来座而津國御島坐云々謂御島者津國御島名也と有ハ神名式ハ摂智郡大山積神社名神大を頭注ハ俗称三島大明神と有り此神の御璽の百済より御在し坐けるが津國三島ハ歸渡りて御在し坐る伊豫ハ津國の三島社ハ摂坐ハ依て其本国なり三島の称有を見べし豫章記ハ伊與見島ハ加茂領也と有ハ右の三島鴨神社の御事を申せるなり雄略天皇九年御紀ハ三島郡藍原の地名見え安閑天皇元年御紀ハ行幸於三島又三島竹村屯倉欽明天皇二十三年御紀ハ三島郡埴廬など見え皇極天皇三年御紀ハ

以中臣鎌子連拜神祇伯退居三島ゐど有て已くよ
り三島郡と云ふ趣あり知名抜郡名ゑ島上志木乃加美島
下上と有も古くハ美の言を上ゑ冠て云りーゐや播
磨風土記ゑ摂津國三島賀美郡と有ふ是ゐり然ふ時
ハ古の三島郡を分て島上島下二郡と為ふ者ゑーて
豊島郡とハ地も隔れ〳〵共近ゑハ係〳〵ずと知べー
後ゑハ三島と云名ハ絶て三島鴨神社と歌詞ゑ謂ゆ
ふ三島江をのゝ人知ふ事とハ成れり万葉七三十四丁ゑ
三島江之玉江之蔦平十一四十八丁ゑ三島菅未苗在時待
者不著也將成三島菅笠と詠ふハ此地ゐり豫章記ゑ

三島江の事を云ゑ文武天皇の御世の頃迄ハ摂津國
中島ハ無く此邊迄海岸ゐれば常ゑ唐船共著く故ゑ
唐崎と云ふと云り今三島江村ゑ隣りて唐崎村と云
有り実ゑ當昔の状然ふ有けりー続後撰ゑ波の打
せ見空ーき殼ゑ我や成ゐ三島の浦の空つ三島江を船出
ーー人も時こハ浪の余波ゑ神や濡ふ相撲集ゑ三島江を船出
憂ふりけふ三島の浦の薄汐火の燃て孤ゐ現存六帖ゑ
せばや夫木廿五ゑ沈み行く三島の浦の濱楸久ーや世を盡
神を君ゑ任せて山家集ゑ風吹けば花咲く浪の折ふ
度ゑ櫻見寄ふ三島江の浦ゐど詠て五六百年以前迄
も右の如く潮海の状ゐりければ況て其ゐり古の事
ハ想像ふ可ー神武天皇の大御船を泊させ給へふ青
雲之白肩津と云ハ右の三島江村ゐり淀河を隔てー
凡一里許水上ふふを思ふ可ー備又豫章記ゑ和銅年
中仁三島大明神相共彼行者自三州有御上洛而後靈
亀年中摂津國淀河乃岸仁御鎮幸之時依有因縁明神

（孝德天皇大化二年御紀ニ可穿溝所云々と有ハ水脈を通す事を穿と云ふ也溝橛の久比是なり）

玉興之乘船仁乘移御須仍此所遠号三島江是也社壇御須云々と云て役小角が事ヶ取交て越智玉興が事を云ふハ彼伊豆国ヶ流さ水奉り一事の有より伊豆國の三島神の上乘坐ふ由を云て世人を欺きたるふ可けれバ信い難ふり故其溝橛耳神と申す御名ハ溝橛ハ傳世六百五十ヶ注ふ大山咋神の咋ヶ同しく山を鑿り水七丁て国作を通し給ふ御功を称へて大山咋神と申せるヶ此神ハ溝を通して水を分配給ふ御功ヶ依れふ御名なり

けりム備久布と云ハ物を食と云し口より通りて腹ヶ入を云ひ（撥又撥字を久比と云も土中ヶ鑿る物の謂なり）其通音ヶて鍬と云物名も地を鑿り通す由の称ふりけるヶ又久比と久理と通ふ事ハ景行天皇五十五年御紀ヶ見えたり春日宍咋邑と云（地）ハ春日

社記ヶ謂ゆふ宍粟明神の地と聞ゆ是久比と久理と通ふ證ふり君て探字を阿耶具流とも佐具流とも訓ハ宍鑿（アナグル）ふり眞鑿（サグル）ふり酸字を恵具流と云も彫鑿の義ヶて凡て久流ハ穿鑿（ヒリカク）つ意ふり万葉十五三十ヶ君我由久道乃奈我氏乎久里多ニ祢也伎保呂煩敬年安米能火毛我母と有も君ヶ往く道の長道を鑿断（クリタ）ねヶて其外方への往来を今絶む事を草葉を焼亡ふ事ヶ轉ふハ一詠ふ者ふり又今も予が淡路國ヶて老人ハ壺類を久理と云ひ（其を作ふ家を久理屋と云）も鑿て状ヶ據て云称ふふを若人ハ都會の言と暦れふを忌嫌ひて多く都煩と云めふハ

中ニは可惜しき事多り又瓶子の事を俗ニ徳利と書て其字音の如く心得るも登ハ利久理ハ鑿金ニて其製れる状ニ依て名と為るなて書典ニ遍て口碑ニ遺れる古言多る可し宗神天皇六十年御紀ニ山河之水泳御魂と有ニ景行天皇四年御紀ニ泳此云區玖利と注されたり泳ハ鑿(くりかた)この言ニて此も本同言なる者なり(下に佐なる云と見る可し)

此ニて大山咋神又若山咋神と申し溝樴耳神溝樴姫命の御名の咋樴の義を曉りて此溝樴耳神を求るハ神名式ニ大和國葛下郡深溝神社相模國高座郡深見神社有ハ共ニ同神ニ通ゆるニ風土記ニ深見郷深見神

社或作深水深海雄略天皇二十二年三月所祭閤靈也と有る此ニ力を得て大ニ明らむる條理なむ有けるなるハ其閤靈神を私記ニ是山神也と有を皇大神宮儀式帳ニ試る大水神社一處称大山罪乃御祖命と見元外宮儀式帳なる山末社の祭神を神名秘抄ニ大山津姫命と共ハ共ハ大山祇神ニてハ有べからず又其大水神社ニ並びて津長大水神社称大水上兒稚長比女命と有て大水神大水上神ハ同下く坐なる耶自賣神社の下ハ大水上御祖命と有て此ニてハ右の大山罪乃御祖命を大水上御祖命と申し共ニ共ニ御祖命ハ謂

ゆゑ母祖命の謂なり然るを三島社は伊豫伊豆共に大山祇神を主神の如く立て祀ると右の三島溝櫛耳神の御母溝櫛姫命の事代主神を要に所縁を以見るに大山祇神の后神ハ闇靈神を渡らせ給へるが故に何方よりも事代主神に共に親しく御在し坐る御事なり有けるに共闇靈神の御事委しくハ已に傳十巻百十九丁に注せるを猶詞林採要にも右に擧たり常陸風土記を引て云るも古日本紀云闇靈 此云久良於箇美 山神也と云るも古説と所見たり山城国小倉神社記にも即是大山祇神合而坐神也故亦謂山神也と見ゆ然るを平田史に右の御名共を大山祇神の亦名と為る類ハ御祖命ハ母祖命と云事を心得ぬも有すなりけれども此を正しく見留ざりける杜撰に出たり可し然して上五百二十八丁に注るが如く伊勢神宮に在ゆる磯部氏ハ也此溝櫛姫命の生坐る天日方奇日方命の末にして姓氏録の石邉公と同神なるに其氏神祭の事を建久行事記に四月例に宇治氏石部氏同初申日祭也宇治氏宇上杜祭石部氏岩井田山口祭也と有る宇治氏も本より同族なるに如此く山神を主も氏神と為て祖神に立る事の年頃不審しなりつるに右の岩井田山口祭ハ儀に石井神社大水上児高水上命形石坐と有り上杜祭と云ハ小杜社大水上児高水上命形石坐と是有るが此大水上神ハ石に謂ゆる大水上御祖命に御在し坐て闇靈神に當りて

此三島溝橛耳命の御事なれば其御児の高水上神ハ
此の溝檝姫命ゝ御在し坐す由を解得て始て數年の
疑を啓くゝ至れりき然して猶坂手神社（小社神社）字
治乃奴鬼神社共ゝ右ゝ同じく大水上児高水上命と
有り若て上二百五十八丁ゝ注るゞ如く同帳ゝ鴨（神）社一處
称大水上御児石巳呂和居命と有ゝ又鴨下神社一處
大水上児石巳呂鴨比古賣命と有る鴨比古賣を頭書
本ゝ鴨比古比女ゝ作り一本ゝハ鴨比古命鴨女命ゝ
作れり何れも一てる鴨ハ事代主神ゝ起れる称なる
ゝ就て思ふゝ此鴨比古命鴨比女命ハ此神と溝檝姫

命と二柱ゝて渡らせ給ふ御事を知べし故此御祖を
大水上命と申せるゝ又右ゝ注るゞ如く其神を大水
上御祖命と申して女神ゝて渡らせ給へるを亦名を
大山罷乃御祖命と申し大山津姫命と申せるを以て
此間竈神ハ一名大山祇神の后神ゝて渡らせ給ひて
私記ゝ是山神也と有ハ必受る所有る説なる事を明
らむ可し偖此を三島溝橛耳神と申す地名ゝて藩橛
耳神と申す御名なるゞ神名式ゝ謂ゆる摂津國島下
郡溝咋神社を大倭神社注進状ゝも口訣りし三島溝
檝姫命ゝ坐す由を云るハ然る言なるゝ其御祖の溝

槻耳神ハ三島と其地名を申せるハ其社の御事見え
させ給ひざるハ彼三島鴨神社ハ事代主神と共ニ御
在し坐べく思ゆる由有れども伊豫國と伊豆國との
三島社の御事を明らめて後ニ知る事なり事代主神と此神と
殊ニ親しく御在し坐す所以ハ山城國愛宕郡賀茂別
雷神社ハ事代主神ハ御在し坐す貴布祢神社を別社と為て其祭祀をも何
も賀茂氏人の執行ふい然る物ゆえ猶其貴布祢ハ
も下上両社有て下社ハ謂ゆる闇龗神ニて坐ふる
上社を奥御前と申して事代主神を祀れる由傳十巻
百二十八丁ニ云ふ如くふれば右の三島鴨神社ハ
て事代主神を本より祀れる社なるが此ニと其闇龗
神の御在し坐ふる事ハ
をも思ふ可くふむ 若く神名式ニ謂ゆる伊豫國越
智郡大山積神社名神大の御事ハ已ふ十一三十ニ四丁ニ注し

文曰記ニ正位大山積大明神大王子内第一王子伊豆三島御事云ふと有て下ニ此島今ハ賀茂御領ニ成り今ハ十六王子の御社上一級有る社ハ島鴨と申すふくと有て葛城賀茂神社ニ同神ニて事代主ニ成る事知らぬなり但此島鴨を彼小角ニ為る中云ふ、是誤ニて取る足ニす又下ニ百ニ丁ニ注ふる如く知名ハ為ニ越智

之ふ名ふ云ふ
神ニ申ふ事有ふ
事代主神の
天足天津彦
行ふ事ふ
朝倉尾崎
可き事ふ
則ち

奉ふが如く此ハ神代よりの鎮坐ふるを右ニ引る風
土記を以考ふる此神の御璽の百済國ニ渡り御在し
坐けふが摂津國御島ニ還り御在し坐して右の三島鴨神
社ニ御在し坐す縁ニて當社を大三島社と云とふり
此ふて右の三島鴨神社ニ事代主神大山祇神闇龗神
三柱の並御在し坐す御事迄ハ所見なり然るふ右五百
九十五丁ニ引る豫章記ニ伊與見島ハ加茂領也と云又有
り是右の三島鴨神社ニ祀る限の神等ハ此大山積神社ニて
も爾奉る證ふる者ふり又伊豆國賀茂郡伊豆三島神
社名神大月次新嘗を纂疏ニ三島明神大山祇命也と注し給

ひ一宮記にも大山祇命と有り然れども公上五百七十三丁に注るが如く三島神と申せるハ即事代主神を渡らせ給ふが故に彼阿波咩命を三島大社本后と申し伊古奈比賣命を當后とハ申せり（されども其例なきゆへハ知らるゝ）偖此社祭神五柱坐と云ふに就て考るに後紀に伊豆國言上三島神伊古奈比咩神二前預名神と有ハ此三島神社と同郡伊古奈比賣神社（名神大）との御事なるべし伊豆志に賀茂郡白濱村に坐白濱明神と云ふ神名記一品當后宮と有ハ蓋此神なり傳云孝安天皇六年建立す三島明神伊豆へ渡りて此に御在し坐し其より三島に遷らせ給ふ因て

（公后の條章記に三島社第一王子島城と有て大山積神と云へり又）

此を古宮と云ふ又五社明神とも云ふ三島と同じく其三神ハ詳ならず（中略）舊記云伊豆の墨ハ名物なり白濱明神の御神草なり三島明神ハ菅なり（下略）と有る此を以て（伊豆）三島神社に事代主神伊古奈比賣命を並祭る事を知れるに扶桑見聞私記に伊豆明神一名攝喰姫と有を見れば此二柱ハ（共に）津國（に御在し坐す神なり）移坐る（移坐る）なり其余の三座の中に二所ハ濡鐵姫命の御父母にて大山祇神閻羅神に坐べき事右件云る例共を推て知べし今一所ハ事代主神の御祖にて胸形神に坐べくゝむ證有て傳十一（四十二丁）に注るが如くなれば五神の説如此くか

内閣文庫

ゝ可｜其菅をしも御神草と云ハ右五百九十六丁ハ引万葉
歌ハ三島菅を詠ミ中古ハも賞方集ハ二葉より三島
の菅を結ばむと浪の打出て得こゝ云ハ六百番歌
合ハ誰ゝ行く夏野の草の葉末より朗ゝハ見ゆゝ三
島菅笠ハども有て此ハ名高き草ゝを思ニハも決
く三島鴨神社より起りて伊豆國ハても賀茂郡有り
又三島神社ハ御在｜坐ゝりけり猶大同類聚方ハ珥
奎麿藥伊豆國加茂郡三島之眞人名毘之家方と有ゝ
此ハ姓氏録左京皇別ハ三島眞人出自ニ諡舒明皇子賀陽
王也と有を續紀ハ天平勝寶三年正月辛亥賜ニ元位猪

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan